

姫路市立動物園での アジアゾウの調教

(Feb. 15, 2007)

アジアゾウの初代姫子は1951年11月に来園し、開園（1951年12月）以来動物園のアイドルとして、市民に可愛がられてきました。しかし、1994年1月に51歳で死亡しました。現在、初代、姫子は、姫路科学館に骨格標本として展示されています。



初代姫子の骨格標本

初代姫子が亡くなった年の10月に、17歳の二代目姫子が動物園にやってきました。成獣を導入ということから飼育管理の方法を繰り返し検討した結果、調教をし、ゾウと同じ場所に入り世話をする直接飼育方法にすることにしました。

■ 調教の目的はゾウの健康管理と飼育係の安全対策です。

調教は飼育係4名が担当し、交代で号令をかける係（ハンドラー）となり同じ号令を使い、同じ動作をさせます。また監視役として管理職が1名立会います。

最初に、ゾウを完全に静止させることから調教を始めました。ゾウとハンドラーが1対1でゾウ舎の中で号令を懸け、静止しなければならないことを理解させます。その号令で静止ができれば褒美の食べ物を与えます。これを毎日繰り返し、言葉による褒めに代えていきます。



ゾウとハンドラー

次に、「前進」、「後退」、「歩行中に右方向に曲がる」、「歩行中に左方向に曲がる」、「前肢を曲げ、頭を下げる」、「四肢を伸ばし伏臥」、「右前肢、左後肢を上げる」、「左前肢、右後肢を上げる」動作をさせる号令を増やし、安全にゾウの動きをコントロールしていきます。



静止姿勢



前肢を曲げ、頭を下げた姿勢



四肢を伸ばし伏臥姿勢

この調教は原則として1日3回行い、号令を懸け、その動作が出来ない場合は、出来るまで行います。また、号令違反、危険な行動をした場合はすぐに叱り、ゾウにどうし

て叱られたかを理解させます。そして、号令どおりに出来た場合は、大いに褒めてやります。ハンドラーは常にゾウの状態、他の飼育係の位置等を把握し、ゾウを管理する状態にあった姿勢をとる号令を懸けます。別の飼育係がゾウの手入れ、検査や治療等を行います。

■ 二代目姫子の調教は順調に進み、現在このようなことが安全に出来ます。

号令により寝室と運動場の出入り、毎日朝夕の体の手入れはいろんな姿勢をとり行っています。その他に、毎週1回、耳の裏の血管から採血をし、血液検査、口腔内の肉眼的検査による健康管理をしています。

二代目姫子は体重が 3460kg あり、この重たい体重を支える足の手入れは欠かせません。毎日掃除して怪我が無いか足裏のチェックをし、爪が伸びると爪切をします。牙が伸びるとノコギリで短く切ります。散髪も行います。そのほか色々な事をします。



口腔内の肉眼的検査



足裏のチェック、掃除

サマースクール、インターンシップなどの教育活動でゾウに直接接触れる企画があります。

危険防止のため1脚を鎖で繋ぎ、号令によりゾウを動かさないようにして参加者に直接ゾウに触れてもらいます。



トライやるウィーク



大人のスクール

12年間のゾウの飼育、調教は順調に進んできました。しかし常に危険が伴うため、毎日の調教を怠ることはできません。ゾウが健康で長生きができるようにこれからもますます絆を深めていきたいと思ひます。

福岡 敏夫（姫路市立動物園課長補佐）